

「郷土を愛し、未来を創る人づくり」のための  
自己点検・評価報告書

平成31年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会

〈参考〉地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 目 次

I	はじめに	1
1	趣旨	2
2	点検・評価の対象	2
3	点検・評価の方法	2
4	点検・評価結果の構成	2
II	教育委員会の職務・事業内容	3
1	教育委員会の活動	3
2	教育委員会が権限を持つ事務	4
3	教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	5
	施策 これからの社会を生き抜くための資質	
	・能力の育成を図る学校教育	5
III	御前崎市牧之原市学校組合教育委員会の自己点検及び評価	6
	大項目1 教育委員会の活動	6
	大項目2 教育委員会が管理・執行する事務	8
	大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	9
IV	学識経験者の意見	12
V	総合評価	13

## I はじめに

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会（以下「教育委員会」という。）では、施設管理者である御前崎市の第2次御前崎市総合計画の基本目標「郷土を愛し、未来を創る 人づくり」に基づき、毎年度発行している「スクラム御前崎」の中で、教育の基本目標と主要施策を明確に示すとともに、施策の実現に努めているところです。

このような中、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、「教育委員会の責任体制の明確化」の方策として、教育行政の効果的推進及び市民への説明責任を果たすため、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことが義務付けられました。このことを受けて教育委員会では、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して組合議会に提出するとともに、市民への公表を行ってきました。

本報告書は、平成30年度教育委員会の活動及び「スクラム御前崎」で示した主要7項目の実現のための25施策について点検及び評価を行い、その客観性を確保するため、学識経験者4名から所見をいただくとともに、第三者的立場から静岡大学名誉教授（松本大学教授）の山崎保寿氏にも外部評価をしていただき、ここに報告書として取りまとめました。

市民の感覚、視点を持って点検・評価を行うことは、今日の課題や今後の取組方針が明確になる点において、大変意義のあるものと思います。

今後も「郷土を愛し 未来を創る 人づくり」を基本目標として、園、学校、地域、行政がスクラムを組み、それぞれの施策を推進していく所存です。

平成31年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会教育長 河原崎 全

## 1. 趣 旨

主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることによって、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、組合議会に提出するとともに一般に公表することにより、市民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

## 2. 点検・評価の対象

点検及び評価は、平成30年度における教育委員会の職務内容や主要な施策・事業を対象として実施いたしました。

## 3. 点検・評価の方法

点検及び評価の実施にあたっては、平成30年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、内部評価を行うことによって課題や今後の取組の方向性を明らかにし、その結果を外部評価として、元小学校長 澤入 眞佐義 氏、元幼稚園長 増田 喜巳子 氏、元中学校長 杉浦 尚志 氏、前教育委員 紅林 幸枝 氏の御意見や、静岡大学名誉教授（松本大学教授） 山崎 保寿 氏に総合評価をいただくことによって、教育に関する学識経験者の知見活用に努めました。

## 4. 点検・評価結果の構成

点検・評価結果については、「御前崎市牧之原市学校組合教育委員会の自己点検・評価シート」で表しました。

自己点検・評価シートは、教育委員会の職務、事業内容及び事業体系を大きく3つの大項目に区分した構成となっています。

### ① 大項目1 「教育委員会の活動」

教育委員会という組織の自らの行動、すなわち教育委員が自ら行う行為・活動を中心に、6つの中項目に分け、点検事項として教育委員会会議の開催回数、運営、広報・公聴、研修会など小項目を設け、点検・評価の対象としました。

なお、「スクラム御前崎」で掲げられた具体的施策のうち、「(1)スクラムプランで推進する教育委員会」については、この大項目内の項目に含むものとして評価を行いました。

### ② 大項目2 「教育委員会が権限を持つ事務」

地方教育行政法及び御前崎市牧之原市学校組合教育委員会の権限の一部を教育長に委任する規則の定めるところにより、教育委員会の権限のうち教育長に委任せず教育委員会が合議によって定め実施する事項となります。これについて、教育委員会が自ら管理・執行する事務として区分し、14の中項目に分

けて構成いたしました。

この大項目内の各項目については、各事業実施年度において、教育委員会が計画し実施する性質のものではなく、事象が発生したときに法律等により実施義務が生じるものであります。従って事業実施年度における事象の発生件数とその事象への対応状況の点検を行いました。

### ③ 大項目3「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」

教育委員会の職務及び事業から①及び②に掲げた事項を除いた部分について、教育長に権限を委任して行う事務としてまとめました。この部分については、「スクラム御前崎」に掲げられた具体的施策の「学校教育」の項目について評価を行いました。

## II 教育委員会の職務・事業内容

自己点検・評価についての報告書をまとめるに当たっては、まずその対象となる教育委員会の権限に属する事務について、その概要の説明が必要となることから、教育委員会の職務・事業内容及び事業体系について記述し、その後、点検及び評価の対象年度における主要な事業について記述することとしました。

教育委員会の職務・事業内容及び事業体系については、既に「点検・評価結果の構成」において記述したとおり、「教育委員会の活動」、「教育委員会が権限を持つ事務」、「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」と大きく3項目に区分して表すことにしました。

以下、それぞれの大項目について示します。

### 1. 教育委員会の活動

#### (1) 教育委員会とは

教育委員会は、地方教育行政法の定めるところにより、学校その他教育機関の設置、管理その他の教育事務を執行することを職務権限とする行政委員会であり、教育委員会の代表者である教育長と4人の教育委員をもって組織される合議体の執行機関です。

#### (2) 教育委員会の構成

教育委員会の構成は、次のとおりです。

ア 教育長・・・教育長は、御前崎市長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育行政に関して識見を有する者のうちから、市長が議会の同意を得て任命します。教育長は常勤で、任期は3年です。教育委員会の意思決定に基づき、教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどり、事務局の事務を統括し、所属の職員を指揮監督します。

イ 委員・・・委員は、御前崎市長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教



育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、市長が、市議会の同意を得て任命します。任期は4年で非常勤です。

(3) 平成30年度御前崎市牧之原市学校組合教育委員会委員

役職名	氏名	任期
委員	吉村 勝	2019年 1月17日～2023年 1月16日
委員	本目 武彦	2016年 1月17日～2020年 1月16日
委員	原崎 志保	2018年 1月17日～2022年 1月16日
委員	下村 勝	2017年 1月17日～2021年 1月16日
教育長	河原崎 全	2018年 4月 1日～2021年 3月31日

2. 教育委員会が権限を持つ事務

教育委員会の職務権限は、地方教育行政法第21条にその職務権限が定められていますが、その職務権限に係るもののうち、以下のものについては、同法第25条第2項により教育長に委任することができず、直接、教育委員会が行うこととされています。

- (1) 学校教育に関する一般方針を定めること。
- (2) 学校の設置及び廃止を決定すること。
- (3) 県費負担教職員の懲戒及び県費負担教職員たる校長の任免その他の進退について内申すること。
- (4) 県費負担教職員の服務の監督の一般方針を定めること。
- (5) 前2号に定めるもののほか、人事の一般方針を定めること及び懲戒を行うこと。
- (6) 県費負担教職員以外の校長、公民館長及び図書館長の任免を行うこと。
- (7) 教育委員会事務局及び学校の職員の任免を行うこと。
- (8) 学校の敷地を選定すること。
- (9) 教育委員会規則等の制定又は改廃について審議すること。
- (10) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。
- (11) 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (12) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (13) 教科用図書採択に関すること。
- (14) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うこと。

### 3. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

御前崎の教育『スクラム御前崎』で示している平成29年度の具体的施策のうち、その管理、執行が教育長に委任されている事業は次のとおりです。

#### 施策3 これからの社会を生き抜くための資質・能力の育成を図る学校教育

学校教育の中で児童生徒に身につけさせなくてはならないのは、「これからの社会を生き抜いていくための資質・能力」です。『資質・能力』とは、「基礎基本の知識・技能」「思考力・創造力」「主体的に人・社会とかかわる力」のことです。

学校教育課は、「スクラム・スクール・プラン」を推進し、学校が児童・生徒に『資質・能力』を身につけさせる教育の営みを多角的に支えていきます。

(1) 教職員一人ひとりの授業力の向上を図ります。

『資質・能力』の育成を図るために、園・小学校・中学校・高校の教職員がスクラム・スクール・プランを通して、子ども観や教育観を共有し「とぎれない教育」の実現を目指します。

(2) 心と体づくりを推進します。

豊かな心と思いやりのある心を育てるため、「スクラムグッドマナー運動」をはじめ地域へ貢献する活動を子どもたちの手で広げていきます。

(3) 個にきめ細やかに対応する教育環境体制づくりを進めます。

特別に支援を要する子や不登校に悩む子など、児童生徒一人ひとりに応じた教育を推進するために、「しおかぜ先生」や「スクールソーシャルワーカー」の配置など、きめ細やかな指導や支援の充実を図ります。

(4) スクラムによる園・学校・家庭・地域の教育力向上を図ります。

子どものよりよい成長は、園・学校教育はもとより、家庭や地域がそれぞれの役割を理解し、責任を果たすことで図られていきます。そのため本市では、相互の教育力を相乗的に高めるコミュニティ・スクールの御前崎版となる「スクラムスクール運営協議会」を推進していきます。



### Ⅲ 御前崎市牧之原市学校組合教育委員会の自己点検及び評価

今回教育委員会の自己点検・評価について報告書をまとめるにあたり、教育委員会が行っている大項目1、2、3について自己点検評価シートにまとめました。

なお、「スクラム御前崎」に掲げる主要施策のうち、(1)は大項目1に含むものとして、(2)から(7)までは大項目3で点検・評価を行いました。

御前崎市牧之原市学校組合 教育委員会の 自己点検・評価シート	実現度	3			◎3段階評価とし、以下の達成状況により評価しています。 ○実現度 3・・・達成またはほぼ達成している(概ね80%以上) " 2・・・概ね達成している(概ね40%超～80%未満) " 1・・・達成していない(概ね40%以下) ○重要度も上記に準じて評価しています。
		2			
		1	2	3	
		重要度			

#### 大項目1 教育委員会の活動

中項目	小項目	点 検 ・ ( 評 価 )										
(1) スクラムプラン で推進する教育委員会	①『スクラム御前崎』の教育の推進をするため、教育委員の研修を深めます。	実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td>■</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> → 重要度			■							○NTTラーニングシステムズ株式会社、杉並区立杉並第六小学校を訪問。「ICT機器の特徴」「ICTを活用した授業」について先進機器の情報および先進校の取り組みを多く学ぶことができた。研修を通して、ICT支援員を増員する必要性を感じた。  ○大和市文化創造拠点シリウスの視察を通して、生涯学習の拠点づくりの参考となる視座を得た。
			■									
②常に実態・課題把握に努め、『スクラム御前崎』の教育の推進を図ります。	実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td>■</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> → 重要度			■							(1)教育委員会定例会 ○教育委員会の施策について審議するため、定例会を隔月に計6回開催し、市の教育の充実に向けて活発な議論を行った。  (2)総合教育会議 ○2回開催された「総合教育会議」において、1.「幼児教育の重要性(幼児教育が将来に与える影響)」、2.「平成30年度全国学力・学習状況調査について」、3.「2019年度御前崎市教育行政の基本方針について」市長と意見交換を行い、行政執行部の意見を取り入れた教育を推進した。開催回数を増やし、さらなる意見交換の場を設けることが今後の課題である。  (3)園・学校訪問 ○小・中学校は年2回、幼・保・こども園は年1回、全校全園を訪問した。園や学校の概要説明を短くし、懇談会の時間を多く持つようにした。保育や授業の参観を通して見えた成果や課題を関係者と話し合った。園や学校のがんばりを認めるとともに、課題に対しては助言し、解決に努めた。 ○入学式、運動会などの園・学校行事にも、全委員が積極的に参加した。	
		■										

(1) スクラムプラン で推進する教 育委員会	②常に実態・課題 把握に努め、『スク ラム御前崎』の推進 を図ります。		(4)所管施設の訪問 ○御前崎市民会館、市民プール、丸尾記念 館、御前崎市文化会館、B&G海洋セン ター、清川泰次芸術館を訪問、市立図書館 にて教育委員会を開催するなどして所管施 設の現状、利用状況を確認した。施設利用 者の増加や利便性を上げるための提案をし ていきたい。
	③園・学校・施設で の移動教育委員会 を行います。		○教育委員会、小学校の教職員、PTA、 地域ボランティア、スポーツ少年団の指導 者、公民館長が語ることを通して、「外か ら見た子どもの姿」を多面的に考える場と して移動教育委員会を浜岡北小、御前崎小 で開催した。地域の人たちがどう感じてい るかを知ることができ、2小学区の特徴、 課題を見つけることができた。
	④『スクラム御前 崎』の活動を広く発 信します。		○「スクラム御前崎」を関係機関等に配付 し、御前崎市の教育について広報した。 ○「スクラム御前崎」を御前崎市ホーム ページに掲載したが、閲覧者が少なく、周 知しきれていないため、閲覧者を増やすこ とが課題である。

## 大項目2 教育委員会が管理・執行する事務

中項目	小項目	件数	点 検
(1)	幼児教育、学校教育及び社会教育に関する一般方針を定めること。	1	○御前崎市教育委員会の主要施策を「スクラム御前崎」としてまとめ、教育委員会に諮り決定した。
(2)	学校、公民館及び図書館の設置及び廃止を決定すること。	0	
(3)	県費負担教職員の懲戒及び校長の任免その他の進退について内申すること。	1	○平成31年度教職員人事異動について内申を行った。(懲戒件数0)
(4)	県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。	0	
(5)	前2項目に定めるもののほか、人事の一般方針を定めること及び懲戒を行うこと。	0	
(6)	県費負担教職員以外の校長、公民館長及び図書館長の任免を行うこと。	0	
(7)	教育委員会事務局及び学校の職員の任免を行うこと。	1	○教育委員会採用職員の採用・退職について決定を行った。
(8)	学校、公民館及び図書館の敷地を選定すること。	0	
(9)	教育委員会規則等の制定又は改廃について審議すること。	2	○御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校施設使用条例の一部を改正する条例について ○御前崎市牧之原市学校組合職員定数条例の一部を改正する条例について について審議した。
(10)	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。	2	○平成30年度2月補正予算案(2月) ○平成31年度当初予算案(2月) について具申した。
(11)	社会教育委員、公民館運営審議会委員及び図書館協議会委員を委嘱すること。	0	
(12)	校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。	0	
(13)	学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。	1	○区域外就学の承認について審議した。
(14)	教科用図書の採択に関すること。	1	○平成30年度中学校用教科用図書(道徳)を採択した。
(15)	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うこと。	1	○平成30年度御前崎市教育委員会の活動及び事務について点検・評価を行った。
(16)	その他	6	○御前崎市牧之原市学校組合教育委員会教育長職務代理者を指名することについて ○平成30年度準要保護児童生徒の認定について ○就学援助費申込書の様式変更について について審議した。

大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

中項目	小項目	点検・(評価)																			
<p>(施策3) これからの社会を生き抜くための資質・能力の育成を図る学校教育</p>	<p>1 教職員一人ひとりの授業力の向上を図ります。</p>	<p>実現度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="630 212 821 369"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→ 重要度</p> <p>実現度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="630 537 821 694"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→ 重要度</p>																			<p>(1)スクラム研究会 ○スクラム研究会は、御小・白小の職員と事前研を行い、小学校とのつながりを意識した授業展開を考えたが、台風の影響のため中止となった。後日自主発表会という形で小学校の教員を招き授業公開をした。</p> <p>(2)スクラムゼミナール ○今年度は奈須教授との日程調整がつかず、御前崎中学校では実施しなかった。</p> <p>(3)～(11)については、市教育委員会と同じ。</p>
<p>2 心と体づくりを推進します。</p>	<p>実現度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="630 772 821 929"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→ 重要度</p> <p>実現度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="630 1120 821 1276"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→ 重要度</p>																			<p>(1)スクラムグッドマナー運動 ○毎月10日に行われるスクラムグッドマナー運動は、御前崎中正門の前にボランティアの生徒50名以上が並び、活発なあいさつ運動を展開している。御小・白小・地小の児童代表と中学校区代表生徒との話し合いの場を設定し、中学校区全体で運動を盛り上げようとしている。</p> <p>(2)鳴門教育大の久我教授を招き、生徒指導について研修をした。</p> <p>(3)情報モラル学習（ネットパトロール） ○11月現在で御前崎中134件の危険な書き込みがあった。学校で内容を確認し、生徒やその保護者へ指導したり連絡をしたりしている。繰り返し指導を受ける生徒もいるため、今後も継続した指導が必要である。</p> <p>(4)マリンスポーツ体験の推進 ○小学校で実施</p> <p>(5)読書活動の推進 ○御前崎中学校では、定期的に図書館の開放が行われるようになり、図書館を訪れて読書に親しむ生徒が増えた。また、校内の空きスペースに、新刊本の紹介コーナーや季節や学期に適応した図書掲示コーナーが設置され、読書環境が整った。</p>	



大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

中項目	小項目	点検・(評価)										
<p>(施策3) これからの社会を生き抜くための資質・能力の育成を図る学校教育</p>	<p>3 個にきめ細やかに対応する教育環境体制づくりを進めます。</p>	<p>実現度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="630 302 821 481"> <tr><td></td><td></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→ 重要度</p>										<p>(1) 「しおかぜ先生」の配置 ○御前崎中学校には配置されていません。</p> <p>(2) 学習支援員等の配置 ○3名の学習支援員を配置した。通常の学級で特別に支援が必要な生徒を支援し、落ち着いて授業に迎えるような体制作りに寄与した。</p> <p>(3) 「巡回相談」「教育相談」(4) 就学時健康診断(5) 就学支援委員会(6) 個性身長支援教育専門家チーム会議 については計画どおりに実施された。</p>
<p>実現度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="630 660 821 840"> <tr><td></td><td></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→ 重要度</p>										<p>(7) 適応指導教室「サンルーム」 ○「サンルーム」には、御前崎中から3年生2名の生徒が入級し指導を受けている。2名のうち、1名は毎日通級している。卒業後の進路についても、ほぼ決定しつつある。</p> <p>(8) 特別支援学級設置再編計画策定委員会(9) いじめ問題対策連絡協議会 については計画どおりに実施された。</p>		
	<p>4 スクラムによる園・学校・家庭・地域の教育力向上を図ります。</p>	<p>実現度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="630 1064 821 1243"> <tr><td></td><td></td><td style="background-color: black;"></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→ 重要度</p>										<p>(1) スクラムスクール運営協議会 ○台風の影響による中止が1回あったため、年5回の開催となった。「早寝早起き朝ご飯」を重点に置き、年3回の朝食調査を実施した。園・小・中共に食べるこの割合が増えてきている。地頭方小・地頭方幼稚園・地頭方保育園も同じように調査を実施し、御前崎中学校区全体での取り組みに広がっている。</p>
<p>実現度 ↑</p> <table border="1" data-bbox="630 1444 821 1624"> <tr><td style="background-color: black;"></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>→ 重要度</p>										<p>(2) 学校支援地域本部 ○市教育委員会と同じ。</p> <p>(3) シニアスクールは実施していない。</p>		

< 語句の説明 >

※スクラム・スクール・プラン(SSP) : 保育園、幼稚園、こども園、小学校、中学校、高校を「1つの学校」ととらえることを基本として、園、学校、地域、行政がスクラム(相互理解、観の共有)を組んで、「とぎれない教育」の実現を目指す。

※スクラムゼミナール : 上智大学奈須正裕教授を授業改善スーパーバイザーとして招き、園と学校に訪問して指導をいただき、職員の資質向上を目指す。

※SSP推進委員会 : 主幹教諭、教務主任、副園長で構成され、スクラム・スクール・プランの推進、各事業運営のサポートを行う。

※CSディレクター : コミュニティスクールディレクターの略。本市では2名配置し、運営協議会の事務局を担当している。また中学校のキャリア教育を充実させるため企業や事業所と連絡を取り講師の選定や生徒の職業体験先との連絡調整をしている。

※スクラムスクール運営協議会 : 学校運営協議会の御前崎版として、保護者や地域の人へのスクラム・スクール・プランについての理解の促進及び地域を巻き込んだ教育の実現に向け話し合う組織。中学校区単位で、学識経験者、地域代表者、園長、学校長で構成される。

※学校支援地域本部(地域学校協働本部) : 学校と地域の教育力(人材)をつなぐ目的で教育委員会学校教育課内に設置した組織。2名の学校支援コーディネーターを置いている。

※スクラムグッドマナー : 豊かな心と思いやりのある心を育てることを目的に、「あいさつで つくろうスクラム 地域と共に」を合言葉として、市民のグッドマナーづくりを子どもたちが率先して進めていく。

※シニアスクール : 55歳以上の市民を対象に、学校において年間10講座程度の授業を行う。児童生徒との交流もあり、開かれた学校を目指す。



#### IV 学識経験者の意見

・情報発信に関して、各学校の情報がなかなか入ってこないなので、できるだけ整理してホームページの更新をしっかりとやってほしい。

・『スクラム御前崎』に関して、たくさん施策があり、成果が見えにくいので何に取り組むか重点を絞ってもよいと思う。

・乳幼児教育は、心の根っこ教育ということで「スクラム」の一番底辺にあるものであり、それがあってこそその学校教育、その上の生涯教育がある。世代交代や保育士不足などいろいろな問題があり、さらに家庭支援・家庭教育力の低下から業務が多岐に渡るという中で、新しい風をどういうふうにかかせるか、皆さん本当に頑張っている。乳幼児教育は学校教育課とこども未来課の2つの課が所管しているので、連携をもっと図っていただきたい。

・先生方の質、授業力向上には研究会、研究授業、授業案の検討委員会、授業案をどれだけ自分で作っているのかが関わってくる。来年度以降、指導要領の中での授業力の向上をできるような先生方になってほしいと思う。

・スクラムグッドマナー運動について、子どもたちがさようならとかの挨拶をすごくできるようになっている。子どもたちの中に挨拶をしようという気持ちを何年か積み重ねていくことに意味があるのかなと感じている。

・家庭教育学級について、保育園が入っていないが、ニーズ関係なくその場を提供してあげた方がいいと思う。

・白羽の風蝕礫産地調査について、公的機関のどこでどのようなものが保管されているかの実態把握はしておいた方がいい。

## 御前崎市教育委員会の自己点検及び評価 <総合評価>

### 1 大項目ごとの評価

#### 「大項目1 教育委員会の活動」について

まず、全体として、御前崎市教育委員会の教育施策が、すべてスクラムプランに位置づけられ体系化されていることが最大の特徴である。教育委員会の諸施策がスクラムプランとして関連づけられていることが、地域連携を中心とした特色ある活動を生むための源となっている。教育委員会の施策方針の明確化が求められる中で、御前崎市全体の教育施策が同一名称のもとに統一され体系化されていることは全国的に見ても特色を持った方法である。

次に、個別の施策については、中項目（1）の①②③に関する施策が成果を上げている。特に、①の教育委員の研修に関しては、今後重要性を増すICTの先進的授業を視察するなど、例年意欲的な取組がなされ、教育委員の資質の向上に寄与している。また、②の総合教育会議については、平成27年度の発足以降、市長と教育長の連携を強化する役割を担うとともに、行政執行部の意見を反映した教育施策の推進につながっている。

一方、④の広報・発信については、教育委員会の活動やスクラムプランに対する市民の関心を高めるためにも、一層の工夫が必要とされる。今後、HPの関連箇所を教員研修会で連絡、区長会への周知・報告、公民館活動での活用なども考えられ、議事録の公開といった一方向的な在り方を一歩超え、双方向的な方法を工夫することが求められる。

#### 「大項目2 教育委員会が管理・執行する事務」について

教育委員会が管理・執行する事務については、『スクラム御前崎—郷土を愛し未来を創る人づくり—』に体系的に示された教育施策を踏まえ、着実な管理・執行が行われている。「教育委員会が管理・執行する事務」は、御前崎市教育のさらなる充実と発展の基盤となるものであり、自己点検・評価報告書の結果を踏まえ、一層効果的で円滑な管理・執行に努力することが重要である。

#### 「大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」について

施策2の「これからの社会を生き抜くための心の根っこの育成を図る乳幼児教育」については、従前から非常に高い割合である「子どもが園に通うことを楽しみにしている」保護者の割合が、平成30年度も98%に達しており、乳幼児教育に関する御前崎市の教育施策の効果が表れている。同様に、通園している子どもの保護者の中で、「子育てを楽しんでいる」割合も98%と非常に高いことから、総合的に教育施策の効果が表れているといえる。なお、乳幼児教育の推進を支える教諭・保育士の資質能力については、各種研修の工夫によって力量の向上が図られているが、年齢構成の関係により平均年齢が若いことから、今後も様々な研修を通じて一層の資質向上を図っていくことが求められる。

現在、少子化が進行する中で、人口維持・増加の施策と連動して、乳幼児教育の重要性が増しており、御前崎市では、地域子育て支援センターの活動をはじめ、巡回相談、相談事業、ケース検討会議、出前型療育など、地域に密着した取り組みが行われている。一方、

ネグレクト、虐待、DV など乳幼児を抱える家庭の問題も、依然として見られることから、乳幼児に対する家庭の教育力を高める施策を継続して行っていくことが肝要である。スクラムプランを柱とした幼保小連携および地域連携を基盤に、今後も「遊び込む子」の育成を目指して保育の質を高める施策を展開していくことが重要である。

施策3の「これからの社会を生き抜くための資質・能力の育成を図る学校教育」については、スクラム研究会を中心とする各研修会の実施、ALT、ICT 支援員、「しおかぜ」先生、学習支援員等の配置、灯台村塾の継続的開催、CS ディレクター企画の職業講話、マリンスポーツ体験など、多様な施策が実施されている。灯台村塾は、参加者の98%に好評であり、マリンスポーツ体験、シニアスクールなどとともに御前崎市ならではの施策となっている。また、毎年継続して開催されているシニアスクールは、高齢者の生涯学習と児童生徒の異世代交流の場として大きな特色になっている。次年度計画されている図書館司書の増員をはじめ、読書活動の推進体制については、今後さらに整備されていくことが期待される。スクラムスクール運営協議会、学校支援地域本部の設置など、学校を応援する地域関係の仕組みが整ってきたことも成果である。今後も、自己点検・評価の結果を踏まえ、御前崎市の特色を生かした創意工夫のある取り組みを推進して頂きたい。

施策4の「誰でもいつでもどこでも学べる生涯学習の推進を図る社会教育」については、家庭教育学級の推進、家庭教育支援員の配置、青少年健全育成の活動、スクラムグッドマナー、地域文化財の継承、文化・芸術活動の推進、生涯スポーツ振興の諸施策などが成果を上げている。特に、地域文化財の継承として、新野左間助公展示館、ウミガメ保護活動、文芸おまえぎの刊行、マリンスポーツ振興、文化財年報のデジタル化など、時代の動きを取り入れつつ、地域の文化・自然を生かした活動が展開されている。今後も、御前崎市の自然・文化・伝統などを生かした多様な取組を充実させていくことが期待される。

施策5の「市民とともに考え、ともに歩む図書館」については、図書館主催の文化活動を中心に、市民に親しまれる図書館を目指した施策が多面的かつ総合的に推進されている。手作り絵本コンクールの応募が増加しており、また、なぶら子ども読書活動、読み聞かせボランティア交流研修会、視聴覚資料の充実等、市民ニーズを踏まえた取組が積極的に行われている。今後も、施策3で示された学校教育における読書活動の推進と連動させ、先進的で市民に身近な図書館を目指した活動を推進していくことが望まれる。

施策6の「子供の心と体を支える魅力ある園・学校給食」については、栄養講話など食育指導の充実と地産地消の推進、安全安心な給食の提供などの施策が成果を上げている。特に、安全安心な給食やアレルギー食への配慮に関しては、6段階のチェック体制が強化されており、園・学校給食の安全管理に関する関係職員の高い意識が見られる。

施策7の「充実した教育環境の整備を図る教育総務」については、毎年予算状況の厳しい中で、必要な点検整備と計画的な改善が図られている。ICT 環境の整備に関しては、市内各小学校へのIpad 配備、ICT 指導員の配置などが継続的に行われ、ICT 環境の向上に寄与している。トイレ洋式率の向上、空調機器の配備、太陽光発電設備など、徐々に学校の施設環境が整ってきている。学校は災害時の避難場所・避難所となることから、防災・減災の観点も含めて、今後も長期的な施設設備の充実と改善が重要となる。

## 2 全体についての総合的評価



御前崎市教育委員会の活動全体として、御前崎市の自然・文化・伝統を生かした教育施策が、スクラムプランを柱にして体系化・明確化されている。スクラムプランのように、一つの理念を中核にして、各種の教育施策が体系化されていることは近隣他市の教育委員会には見られない特色といえる。ただし、自己点検・評価の実現度の低い項目については、今後も原因を考究するとともに一層の改善を図る必要がある。

最後に、今後に向けた留意点として、次の事項が挙げられる。

- ①教育委員会の活動に関する広報、家庭・地域との一層の連携、社会教育および図書館活動の推進などについて、今後もスクラムプランの教育施策と関連させて推進することにより、御前崎市全体として総合的に成果が上がるよう図ることが重要である。また、防災教育については、相当な努力がなされており、今後も対策を強化していくことが期待される。
- ②地域文化財の保護や文化活動の継承については、その重要性和価値に鑑み、今後も一層の充実と工夫改善が必要である。御前崎市の豊かな自然・文化・伝統などが、学校教育に関する教材や教育活動として、今後も有意義に活用されることが望まれる。特に、灯台村塾、シニアスクール、手作り絵本コンクール、マリンスポーツ体験、ウミガメ保護活動のような御前崎市の特色ある取組が、市民や地域の自主的な活動として、学校と地域の連携を強めるために生かされるよう配慮することが重要である。
- ③平成30年度の「自己点検・評価報告書作成に伴う学識経験者会議」でも詳細に検討され多くの参考になる提言や改善意見が出されているように、御前崎市の教育施策およびその成果の検証改善に、地域の教育関係者の知見を生かし、一層の充実を図ることが重要である。